

Heidenröslein

野ばら

Musik: Franz Schubert

Text: Johann Wolfgang von Goethe



1.



Sah ein Knab' ein Rös - lein stehn, Rös - lein auf der
ザ アイン クナプ アイン れ - ス ラ - イン シュティーン れ - ス ライン アウフ テア



Hei - den, war so jung und mor - gen - schön,
ハイ デン ヴァー - る ソー ユング ウント モ - ー る ゲ - ーン シューン



lief er schnell, es nah zu sehn, sah's mit vie - len
リーフ エル シュネル エス ナ - ツ - ズィーン サ - ス ミ - ート フィー - レ - ーン



Freu - den. Rös - lein, Rös - lein, Rös - lein rot
フロ - イ デン れ - ス ライン れ - ス ライン れ - ス ラ - イン ロート



Rös - lein auf der Hei - den.
れ - ス ライン アウフ テア ハ - - - イ デン

2.



Kna - be sprach ich bre - che - dich Rös - lein, auf der Hei - den!
クナ - ベ シュプらハ イヒ ブレ - ヒエ - ティヒ れ - ス ライン アウフ テア ハイ デン



Rös - lein, sprach: Ich ste - che - dich, daß du e - wig
れ - ス ライン シュプらハ イヒ シュテ - ヒエ - ティヒ ダス ドゥ イー ヴィヒ



denkst an mich, und ich will's nicht
デ - ンクスト ア - ン ミヒ ウ - ント イ - ヒ ヴィ - ルス ニ - ヒト



lei - den. Rös - lein, Rös - lein, Rös - lein rot,
ラ - イ デン れ - ス ライン れ - ス ライン れ - ス ラ - イン ロート



Rös - lein auf der Hei - den.
れ - ス ライン アウフ テア ハ - - - イ デン

3.

Und der wil - de Kna - be brach 's Rös lein auf der
 ウント デア ヴァイル テ クナ - ベ - ブラハ スレーズ ライン アウフ デア

Hei - den; Rös - lein, wehr - te sich und stach
 ハイ デン レース ライン ヴェーレン テ ズィーヒ ウーント シュタハ

half ihm doch kein Weh und Ach,
 ハルフ イーム ドホ カイン ヴェー - ウーント アハ

must' es e - ben lei - den.
 ムースト エース イー - ベー - ン ラー - イーデン

Rös - lein, Rös - lein, Rös - lein rot,
 レース ライン レース ライン レース ラー - イン ロート

Rös - lein auf der Hei - den.
 レース ライン アウフ デア ハー - イーデン

ドイツ・ウィーク2017
 Deutsche Woche

クラシック音楽の夕べ

Abend mit klassischer Musik

ドイツ語学科創設50周年記念
 50-jähriges Jubiläum der Deutschen Abteilung



「野ばら」はゲーテが22歳の時(1771年)に書いた詩で、この曲はシューベルトが18歳の時(1815年)に作曲したものである。

一般に、シューベルトとヴェルナーの曲がよく知られているが、ベートーヴェン、シューマン、ブラームスの他、多くの音楽家によって作曲されている。

日本では、「童は見たり 野なかの薔薇」で始まる近藤朔風による名訳が歌い継がれている。